

四、田中基之教会長さんの時代（昭和四二年～昭和四七年）

昭和四三年は、佼成会は新たな布教土壌の開発と、より一層地域社会との密接な関係を持つために、包括地域を地域行政単位に即した教会支部制へ移行する教団の新方針を打ち出しました。これにともない、仙台支部は昭和四四年に仙台教会となり、各法座が支部へと名称を変更しました。そして一二法座から四支部を設置し新体制への移行を図りました。新支部長に任命された人の中には和地章雄さん、志賀野充代さん、石川益弘さんなどの仙台準連絡所時代から活躍していた幹部さんはいませんでした。田中教会長さんは、教会の役員の子世代交代をはかり、思い切った若返り策を断行なさいました。

昭和四四年は庭野日敬会長先生が、明社運動の提唱を行った年でした。田中教会長さんは、さつそく同年六月に宮城県明社大会を実施することにして、このために南支部茂庭地区をはじめとする各地区での準備大会を開催しました。明社大会の成功に向けて教会の全勢力を投入したのです。さらに田中教会長さんは宮城県キリスト教会が開始した靖国法案成立反対運動への協力や西多賀ベッドスクールへの慰問奉仕、地元選出地方議員との交流など、いろいろな方面に仙台教会の会員を進出させ活動する場をつくって下さいました。

【仙台教会】

昭和四二年（一九六八年）

十二月二二日 田中基之支部長就任（前岐阜支部長）

昭和四三年

一月一日 初めて正教師資格者が誕生（第六期生）

三月五日 創立記念式典（この月より十日、一四日を教学研修日とする）

九月九日 庭野欽司郎氏をお迎えし、ご本尊勧請式を挙る

十一月二八日 仙台支部発足九周年記念式典

昭和四四年

一月一日 組織改変により仙台教会と改称

東北地方一三教会を統轄して奥羽教区となる

一月 教会・支部制施行 教勢「四支部 三、八三九世帯」

法座を再編成して支部組織を構成

新四支部が誕生 支部長体制となる

事務長 和田花子

仙台中支部長 渡辺和子

仙台北支部長 中村浩子

仙台南支部長

名取支部長

本多一江

小塚須身子

【教団】

【社会の動き】

小笠原諸島返還

三億円事件

GNP世界第二位

東大闘争

アポロ初の月面到着

四月十八日 天谷研究室長をお迎えし教育者研究会開催

四月二十八日 普門館落成式記念団参参加

六月十九日 庭野日敬会長先生をお迎えし

「明るい社会づくり運動宮城県推進大会」開催
(宮城県スポーツセンターに八千人参集)

十一月二三日 仙台支部発足十周年記念式典

教勢「四支部 四、三二八世帯」

四月 高松市で第一回を開催

「明るい社会づくり運動推進大会」開催

【昭和四四年 明るい社会づくり運動宮城県推進大会】



【昭和四四年 仙台支部発足十周年記念式典】



【仙 台 教 会】

昭和四五年

八月十九日 広瀬川灯籠流し参加

九月十二日 班長練成記念団参加

十一月二十八日 仙台支部発足十一周年記念式典

昭和四六年

一月 仙塩支部発足（佐々木将江支部長）

教勢 「五支部 四、六三九世帯」

一月十二日 第一回全国主任結集大会に参加（全国五千人）

一月二十日 仙台教会道場にて初の結婚式挙行（佐藤家、升沢家）

二月七日 全国班長結集大会に参加（普門館）

九月二十六日 庭野日鑛先生をお迎えし青年部決起大会開催

十月 古川法座所地鎮祭

十一月二十八日 仙台支部発足十二周年記念式典

十二月五日 古川法座所入仏式

【教 団】

【社会の動き】

日本万国博覧会

十月一六日 第一回WCRP開催（京都）

マクドナルド一号店開店

昭和四七年

一月二三日

古川法座所落成式 教勢「五支部 五、四〇九世帯」

十一月二八日

仙台支部発足十三周年記念式典

十二月一日

田中基之教会長本部に転任

田中教会長さんは「因習を破り、明るい家庭・町づくり」を信条として、仙塩支部や古川法座所をつくり、教勢の拡大に努めて下さいました。

発足当時の古川地区

「現在の太田市古川地区に法の種が蒔かれたのはいつ頃、どのようにしてだろうか。昭和二十年代の古川での入会者は色麻地区の大道寺たかお、小川恵造、三本木地区の瀬戸敏男、森崎とよみ（早坂かつえの母）など少数であった。森崎は市川（名不詳）が導きの親、その筋の人で入会改心した姿を見て入会した。昭和三十年代には佐々木義修宅（加美）佐々木忠太・啓予宅（古川）で法座が持たれるようになる。当時市内へリヤカーを引き野菜売りに出た斉藤スン（恭代）との出会いで法が広がることになった。佐々木忠太は警察官退職後、ご法一筋バイクで古川、三本木、色麻と布教に努めた。昭和四十年代には斉藤晃生宅内に法座所が落慶になり、宮城県北部の拠点の確立をみた。昭和五十一年には初代支部長に斉藤恭代が就任した。」

（古川支部五十周年記念誌より）

沖繩返還・沖繩県発足

浅間山荘事件

菊地伸江布教員さんの体験

信じて行じてありがたく

「母が佼成会に昭和三七年に入会していたので、あまり抵抗なく自然と教会に足を運んでいました。導きの親である叔父夫婦がみるみる仲良くなっていく姿を見たり、岩沼の森景さんの話を聞いて「こういう教えがあるんだ。」と感動し自分から入会させて下さいと言いました。そして長男の病気を機に熱心になり、すぐに婦人部長のお役を頂きました。

当時は導き、手取り、法座の毎日で一日に導きが五体、十体はざらで、それ以上の時もありました。布教の範囲も広く旧名取支部は、名取から南の方面、角田、白石までも手取りに行きました。帰宅は、夜の七、八時は当たり前の日々でした。長男が小学一年生の頃、入院生活が長い為院内学級で授業を受けていました。面会は週一度、日曜日のみでした。子供にとってはどこの家でも、ご馳走やおもちゃなどを差し入れしてくれる唯一の楽しみの日でした。ところがある日曜日に、角田方面の手取りに行き、午後から面会に行こうと思いましたが、途中一人で帰る訳にもいかず、結局帰宅が八時を過ぎてしまいました。息子は、母親が午後

になっても面会に来ない！と父親に泣いて電話をしていたのです。息子には寂しい思いをかけ、主人からは「お前は勘当だ」といわれた事もありました。

それから主任のお役を頂いた頃は、教会長さんから「今日は導き二十体」と言われ「えー！一日二十体も無理！」という心が起こりました。四人で飛び込み布教をしました。行く先々が留守だったり、やっと話が出来たと思つたのに、頭から塩をまかれたりもしました。夏で薄着だったので塩がしみてヒリヒリしました。塩をまかれたという事は、二十体も無理だと受けた心のため、仏さまから逆化の修行を頂いたのです。しかし私は、お清めをしてもらったようなものと切り替え車の中でご供養をあげてから、導き手取りに歩きました。導き一体、すこやか保険に四件入って頂きました。毎日の導き修行の中では、ほうきで追いかけられたり、お茶をかけられたりもしましたけれど、苦しいとか辛いとか思うこともなく、ご法とはありがたい、深く意味は解らないけれどもありがたいとその頃から思い、修行を続けてあつという間に三、四十年が過ぎて行きました。(後略)

(名取支部五十周年記念誌より)



【昭和四七年 古川法座所落成式】



【当時の古川法座所】



【昭和四三年 ご本尊勧請式】



【昭和四五年 班長練成団参】



【当時の教会結婚式】

【昭和四五年当時の仙台】

旧四号線と北仙台駅入り口交差点から
西を臨む。



仙台駅前（裏五番町）



仙台市内

（市営バスには車掌さんが乗っていました）

